

## 第60回広島県小学校教育研究会健康教育部会研究大会

令和5年12月6日(水)  
新日本造機ホール

小学校における保健教育・安全教育・食育に関する専門性を高め、健康教育の推進を図ることを趣意とし、「健康教育の組織的取組の充実をめざして」を研究テーマに、第60回研究大会を開催いたしました。県内各地より総勢209名の参加をいただき、有意義な研究大会となりました。

### 【講演】

「学校健康教育の推進について」～健康教育における養護教諭の役割～

講師 日本医師会 常任理事、日本学校保健会副会長  
第12期文部科学省中央教育審議会委員 渡辺 弘司様



中央教育審議会委員として、最新の情報について、教師の働き方改革から学校保健に関することまで幅広い情報を、ご講演いただきました。

#### 1. 教師の働き方改革の在り方について

学校の教師が健全でなければ、きちんとした教育や指導はできない。学校医ではなく、産業医を絡めた教師の健康管理体制を構築してもらいたいと要望している。

コロナ禍から勤務時間が減っていることに対して、教師のストレスが増えているという結果がある。教師は精神疾患による休職率が非常に高く、依然として改善されていない。令和4年度の教員休職等調査結果では、休職率が前年度より13%増加し、過去最高の値を示している。休職者とは別で有給休暇などを使い1カ月以上休んでいる教師も合わせると、その合計は1万人を超えている。目の前の数字を減らすのではなく、結果が必要である。勤務時間を減らしただけでは解決しない問題について考えていかなければならない。また、在校時間は減少しているが、持ち帰り業務の時間が増えている。職場で仕事を全てこなしていくのが本来の働き方の在り方である。養護教諭・栄養教諭における働き方の改革について、人員の配置を含めて環境整備をしてほしいと要望している。子供の健康リテラシーの向上、健康教育を推進するため、子供にその能力をつけるということが必要であり、それが将来の健康の維持の成果として上がってくる。心身が健康であって初めて学業に邁進できると考えている。

#### 2. 令和5年度全国学校保健会中央大会での指導参考資料の充実の要望について

性に関する指導資料の作成について要望があった。緊急避妊薬を薬局で自由に買えるようになるOTC化に伴い、安易な使用が懸念される。約1割は使用効果が得られないため、できるだけ学校で個に応じた指導してほしい。メディア利用に関する指導資料の作成についても要望があった。近視の子供が増加しているため、それに応じて、デジタルデバイスの使い方を指導しなければならない。特にスマホは目から近い距離で使用してしまうし、睡眠障害を起こす要因となりかねない。

#### 3. 薬物乱用防止教育について

若年層において、精神科医療施設を受診する薬物関連精神疾患患者の主たる薬物は、約6割が一般薬である。2014年頃は、薬物依存症の治療を受けた10代患者の主たる薬物で、一般薬は0%であった。しかし、2020年まで、2年おきに行った調査では増加の一途を辿り、2020年には56.4%が一般薬による依存症治療を受けた。SNSで容易に一般薬による薬物乱用の情報を知ることができ、ネットやドラッグストアなど容易に一般薬を手に入れることができるため、売る場所を制限しても問題の解決にはならない。薬物乱用をしないことは前提であるが、ネガティブな感情やストレスへの対処として自己治療的に機能していることを理解し、なぜ薬物乱用をするのかを考え、薬物を乱用しないように手を差し伸べることが大切である。また、禁煙対策同様、「脅し教育」では効果はあまり期待できないだろう。

### 【実践発表1】

『つながり』を実感し、主体的に「食」への関心を深めることをめざした児童の育成」～第3学年国語科「すがたをかえる大豆」と関連づけて～

安芸高田市立高宮小学校 養護教諭 倉本 裕美  
安芸高田市立甲田小学校 養護教諭 大下 夕依



【指導助言】 広島県教育委員会事務局 豊かな心と身体育成課健康教育係 指導主事 森川 のどか 様

(取組について)

- ・食に関する指導の全体計画の見直しが行われ、単元の時期に合わせて、給食や学級活動などに関連付ける工夫がされている。
- ・国語科と関連付けた学びが深まる工夫や、他の学年でも活用可能にするために、DVD教材が作成され、ICTの効果的な活用が行われている。
- ・DVD教材の中には、実際の学校給食に使用されている場面について触れられており、児童が自分たちの食生活へつなげることができている。
- ・各校の実態に合わせた指導内容が設定されている。
- ・PDCAを部会内で情報共有し、児童の健康増進、食育推進につなげる工夫がされている。

(今後について)

- ・発達段階に応じた学習の積み上げと教科横断的な視点をもってほしい。
- ・教職員の異動があっても学習指導案を作成することで、事務的な業務負担を軽減し、より主体的な学びになるよう、指導内容を練ってほしい。
- ・体験活動とデジタル技術を上手に併用し広く活動を展開することで、学校、家庭、地域の連携を深め、児童の健康増進、食育推進を継続してほしい。

### 【実践発表2】

「挑む」～誰が守るの？みんなの「安全」～

福山市立千田小学校 教諭 中田 和輝



【指導助言】 広島県教育委員会事務局 豊かな心と身体育成課健康教育係 指導主事 大名 克英 様

(取組について)

- ・安全教育を通して育成したい資質・能力を、教職員で捉え直していた。また、資質・能力をベースにして、目指す姿と現状とのギャップを分析し、課題設定をしており、現状分析の質が高かった。
- ・避難訓練における児童の安全や目指す姿を考えることにとどまらず、日頃の学校生活にも視点を広げ、登下校の仕方や挨拶を含めた子供の行動、遊びの中での安全の考え方など、子供の姿を見ようとしている。
- ・避難訓練等の取組についてよりリアルを追究するためには、学校の取組を変更しなければならずハードルは高いと考えられるが、子供たちに必要な資質・能力について教職員で話し合っているからこそ挑むことができている。

(今後について)

- ・健康教育においては、教育と管理が密接に関連して動くよう、マネジメントしていくことが求められている。
- ・取り立てて学ぶだけでなく、日常的な活動につないで考えていく視点を大事にしてほしい。